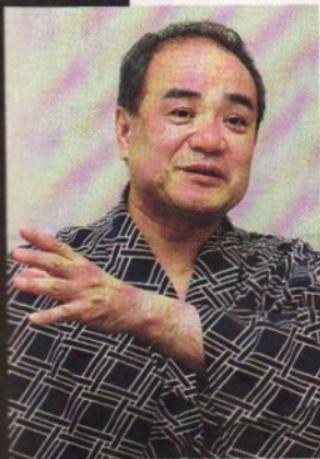


# 伝統芸能



文楽太夫 豊竹英大夫

花鼓 はな  
つづみ

年四回ずつ、東京と大阪で文楽の定期公演が開かれるが、お客様の雰囲気はかなり違う。立地条件が対照的。東京は芝居は道頓堀の所の隣にあるが、大阪は繁華街の真ん中、至近距離にあやしげなホテルが立ち並んでいる。

観客席にも東西の温度差はある。東京はシンとしているが、大阪はにぎやかだ。ごく一般的への激しい拍手、笑いのどよめき、すり泣き、遠慮のおばあちゃん一人が「そこ

ない客席でのつぶやき…。

お客さまから聞いたおもしろい話がある。三十年ほど前、文楽の芝居は道頓堀の

「朝日座」で打たれていた。

当時は座席で飲食OK。芝居

を観ながら飲み食いしたあけ

る人を、浮城子を語る床から

よく見受けた。そのころ毎公

演、東京から大阪へお見えに

が、大阪にはいなかった。ごく

なる姉妹がいた。

ある日、観劇中に後ろの席

の人間にこんな話を聞いた。休憩時間、ロビーのソファに座る隣のおばあちゃんから声をかけられた。「おねえちゃん、ここにまた居てはる?」。そして自分の手荷物を指さしながら「ちょっとトイレにいくつぶかられ、見といて」と言わされた。大阪ではよくあることらしい。

この二つの体験談は、決して大阪の流儀に慣って語られたものでない。浪花の開放的な空気をひたりながら「文楽」を体験できた、その新鮮な驚きと喜びに満ちているのである。

## 東京と大阪、観客の違い

豊竹英大夫  
—東京・国立劇場で

そ食べ始めた。一人がおにぎりを落とす、かがんで拾うとしている気配だが、なかなか見つからない。「あ、前のねえちゃんの足元にころがってる」。声をひそめているもの丸聞こえ。おにぎりを取るのを暫くあきらめたが、姉妹はバニックに陥り、芝居を味わうどころではなかつた。

最近も、東京から来られた

人にこんな話を聞いた。休憩時間、ロビーのソファに座る隣のおばあちゃんから声をかけられた。「おねえちゃん、ここにまた居てはる?」。そして自分の手荷物を指さしながら「ちょっとトイレにいくつぶかられ、見といて」と

言わされた。大阪ではよくあることらしい。

この二つの体験談は、決して大阪の流儀に慣って語られたものでない。浪花の開放的な空気をひたりながら「文楽」を体験できた、その新鮮な驚きと喜びに満ちているのである。